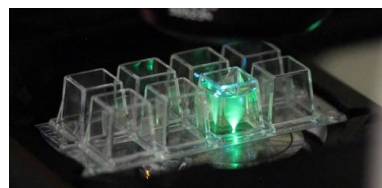


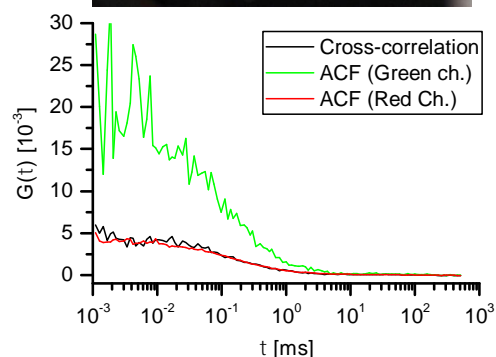
溶液中における1分子動態・分子間相互作用の定量技術

- 分子のサイズや分子数を水溶液中、細胞内で定量可能
- 蛍光で特異的な定量、分子間相互作用解析が可能
- バイオ標準へ応用展開中

分子の拡散による蛍光シグナルの揺らぎを解析する、蛍光相関分光法を基礎とした様々な関連法を駆使し、1分子のサイズや数、相互作用を溶液中や生きた細胞内で定量しています。分子のダイナミクスを分子が機能するその場で定量できる点が強みです。また、分子の濃度を検出分子数から（分子量の情報や検量線不要で）絶対定量する技術を持っています（特許6590244号）。



- 値付けされた物質濃度標準物質の製造方法（特許6590244号）
- Sasaki et al., *Bioimages*, 27, 13-22 (2019)



蛍光相関分光法、蛍光相互相関分光法を使用した蛍光試料の計測ならびに手法の活用に関するコンサルテーションでの連携が可能です。試料の機能を保った溶液中で、蛍光分子の分子間相互作用や分子数の定量、粒子サイズの変化などを簡便に測定できます。1分子レベルの測定から、データの解釈までサポートいたします。

関連技術分野：1分子計測、分析化学、バイオイメージング、バイオ標準

連携先業種：製薬、化学、材料、バイオテクノロジー